



この地に眠るお宝をたくさん発見！楽しく学べる、埋蔵文化と出会おう！

倉敷市の埋蔵文化財を保護・保存するための拠点施設として、平成5年に開館しました！当施設には、弥生時代の人々が住んでいた「竪穴式住居」の復元模型や発掘調査でわかった倉敷の遺跡、人々が使っていたと思われる土器などさまざまな出土品を展示しています。ほかにもとんぼ玉やミニはにわが作れるイベントも定期的に開催し、子どもと一緒に大人も大昔の歴史や人々の暮らしを想像しながら楽しんで学ぶことができます！

◆ 施設のおすすめ

展示室のすぐ左手には、壁一面に展示された長さ6mを超える縄文時代の「船倉貝塚」の貝層断面があります。この貝塚には土器のかけらだけでなく、瀬戸内海で採れる魚の骨や貝がらなども含まれており、当時この地に住んでいた人がどんなものを食べて生活していたかがわかります。アワビやカキもありますよ(笑) ほかにも、倉敷市内の上東遺跡から出土した「上東式土器」という沈線の連続した文様などが特徴的な、この地ならではの土器もあります！

◆ 子どもたちへのメッセージ

本物の土器や古代瓦に触れることのできる「さわってみよう」コーナーや土器の復元を体験できる立体パズル、オリジナルのめいろ(イラスト)など、小さな子どもたちにも楽しんで学んでもらえる工夫をしています。先日、当施設を訪れた女の子に「めいろの絵が変わってる！」と大きな声で喜んでくれた時は本当に嬉しかったです。流域パスポートもどんどん利用して、ぜひ当施設を訪れてみてください。みなさんが喜ぶような驚きと学びを届けたいと思っています。



市内で発掘された遺物を展示



施設の外観



発掘調査を再現したジオラマ



立体土器パズルや埋文パズル